

平成30年度第2回社会教育委員会議抄録-

日 時： 平成30年5月15日（火） 13時30分～14時15分

場 所： 西宮市役所 東館8階 教育委員会分室

〔出席委員〕

中 村 哲 哉	松 本 祐 子
福 田 富 士 枝	川 本 輝 子
田 中 理	森 郁 子
福 田 洋 子	伊 藤 篤
西 本 望	

〔行政出席者〕

山本 教育次長	上田 社会教育部長
佐々木 学校教育部長	石飛 社会教育部参事
中島 社会教育課長	合田 文化財課長
野田 人権教育推進課長	井上 地域学習推進課長
北 中央図書館長	中西 北口図書館長
藤網 生涯学習推進課長	酒井 社会教育課係長
坂井 社会教育課係長	谷池 社会教育課主事
石塚 社会教育課主事	木村 社会教育課嘱託員

署名委員

_____ ㊟

_____ ㊟

平成30年度 第2回社会教育委員会議抄録

- 議長 定刻になりましたので、ただ今より平成30年度第2回社会教育委員会議を開会させていただきます。
本日の出席者は9名です。
- 議長 本日の傍聴はありますか。
事務局 ございませぬ。
- 議長 本日は、30分ほど会議をしました後に、1時間半の研修を予定しております。
『「生涯学習の都市づくりに向けて」—ユネスコの学習都市構想が示唆するもの—』と題して、ご講演をいただきます。生涯学習社会の充実が求められている中社会教育として必要な役割についてご講演いただきます。今回の審議テーマの参考になればと思います。
質疑応答のお時間も設けておりますので、委員の皆様からも是非、審議テーマへつながるようなご質問をしていただけたらと思います。
- 議長 それでは議事の次第に従いまして協議に移ります。
議案第1号「審議テーマについて」です。
前回の会議でもお伝えいたしました、この3月に、文部科学省より「第3期教育振興基本計画」の答申が提出され、そこで、「社会の持続的な発展を牽引するための多様な力を育成する」「生涯学び、活躍できる環境を整える」などが示されています。また、西宮市では現在、平成31年～10年間の市政の第5次総合計画の策定中だそうですし、生涯学習推進計画を市長事務局で改訂中でございます。
文教住宅都市 西宮にふさわしい生涯学習のあり方は何か、住民による地域課題解決が期待されている中、社会教育も深く関わる必要があると考えております。
今期の2年では、「今後の生涯学習の推進と社会教育のあり方」をテーマに審議を進めていきたいと考えております。
- 前回もお配りしましたが、「資料2」の中の「第3期教育振興基本計画の基本的な方針」の中で、今回のテーマに一番関係すると思われるのが、4ページの中ほどにあります、「3 生涯学び、活躍できる環境を整える」の項目から、『人生100年時代を見据えた社会の持続的な発展のための学びの推進』に焦点を絞って皆様のご意見をいただきたいと思っております。
本日お配りしております、『意見確認書』にいくつか設問を用意しており、委員の皆様からのご意見を確認したいと思っております。
- まず、一つ目の設問として、「人生100年時代はどのような社会が想定されると思われるか」について、ご意見等はございますか。例えば、団塊世代が退職した後、地域の中で100年生きるためにはどうすればよいか、今の子供たちが大人になった時にどうなっているのか、それにふさわしい学習環境は何かなどについて自由にご意見を頂ければありがたいと思っておりますが、いかがでしょうか。
- 議長 例えば自分でしたら、退職後に何かしたいとなっても、今までやってきたことをやるのはつまらないと思えます。しかし、新しく何か始めるにしても準備が必要なので、退職後の人間がリカレント教育を受けられる環境等があり、色々な学習の選択肢がある、退職後の社会への貢献の仕方が考えられる仕組みがあれば良いなということだと思います。
- 委員 私は、人と人とのつながりの部分が無いことには学習にも至らないのではないかと
思います。例を出しますと、私は月に何度か高校の恩師と同級生と一緒にバーで集

まったりしています。そういったつながりから、そのメンバーで展覧会や講演会に行ったりしてみんなで学ぶ機会があります。人とのつながりが何も無い人が、一人で生涯学習を培っていくのは困難だと思います。学生時代の同級生であったり、地域の自治会であったり、身の周りに様々なつながりの場があると思います。そのような場所です、人と人との関わり、つながりをどう組み立てていくのが重要であり、それが生涯学習につながるのではないかと考えております。

議長 人と人のつながりが、学習環境を生み出すということですね。
ありがとうございました。

委員 私は今、週に3日働いているので、4日間空いております。その4日から家事等に割く時間を引きますと自分の時間ができます。その時間で毎年1、2個新しいことに取り組みようと思ひまして、幼い頃にやりたかったことをリスト化してみました。実際リスト化してみますと、やれてないことが多いなと思います。この取組みを3、4年経ったら整理してみて、もう満足したら次の新しいことをやるということに取り組みんでいます。新しいことをやることは脳の活性化にもいいのかなと思います。そういった新しいことに取り組める場所を探すことができるネットワークみたいなものを提供することができれば生涯学習につながり、いいなと考えております。

議長 やりたいことがある場合に、取り組める場所や機会をすぐに見つけることができるネットワークがあればいいなということですね。ありがとうございました。

委員 私が地域の中で活動している中で一番の課題だと思うのは、高齢化とその後継者になる担い手がないということです。それを改善していくのは、やはり皆さんがおっしゃっている人とのつながりが大切だと思いますが、更に言うなら、つながることができる場所を作ることが大切だと思います。それは自然にできるものではなくて、最初は作っていかないとなかなかそういった場所はできないと思うので、場所を作らなければいけないと考えております。そういった考えから、この5月に子供から高齢者の方までが集まり、学習できる場所を作ろうということで「^{まち}地域のがっこう」というものを作り、開校しました。やっぱり一部の人でつながるのではなく、様々な世代が広くつながっていかないといけないのかなと思います。

議長 それではまた、その新しく始められた「^{まち}地域のがっこう」の経過や経験談を、次回以降のこの会議で聞かせてください。ありがとうございました。

委員 先程からみなさんもおっしゃっているように、私も世代間の交流が重要だと考えております。リカレント教育という言葉が出ましたけれども、例えば育児に関することでも団塊の世代の方がならった方法と今の世代の方の方法とでは全然違います。これでもし、団塊の世代の方が、若い世代の方にせっかく助けようと思っても、違うやり方をするとギクシャクしてしまいます。その部分をリカレント教育として今に適した子育ての方法を学んで、若い世代と交流していけば、上手く地域で子育て支援ができると思います。世代間の交流で、良い伝統や経験と今の時代に適したものを上手く組み合わせればいいのかなと思います。

委員 私の場合は子ども会から見た考えになりますが、子ども会で高齢者の方に来ていただくイベントを開催した際に思ったのは、やはり高齢者の方の知恵は大切だなということです。これからも、子どもと高齢者の方が遊び等を通して交流し、子どもの

成長につなげていくイベントを開催していきたいと思います。

委員 皆さんのお話を聞いて、経験や知恵を持っている方はたくさんいますが、外とつながるきっかけがないような気がします。高齢者の方等で何かやりたいと思っている方達は多いと思います。そういった方達が結束したらすごい力になると思っています。公民館等でやっているイベント、講座に行くという一歩を踏み出すきっかけ、つながりのきっかけがおきるような何かがあれば良いなと思います。

委員 個人的に感じているのが、地域の高齢者の方等と子供がかかわる機会は多くあると思いますが、その子供の親世代がいまひとつ関心が薄いということです。子供と地域の方が関わったとしても、そこを地域の方に任せっぱなしにしている親が多いと思います。そういったところを親も子供と一緒に参加して、自分たちがまた高齢者になって地域にかえるという意識を持てばもう少し変わるのかなと思います。

議長 ありがとうございます。

委員 皆さんの意見を聞いて、意見がバラバラかなと思ったのですが、全部つながっているなと思いました。そのなかでやはり「つながり」がキーワードなのかなと思っています。つながりがなかったら不満が多く出てくると思います。相手のことがわからないからです。つながっているからこそ、他人を理解でき、不満がなくなるのだと思います。私の先輩に大阪でボランティアや地域での活動を熱心にされている方がいるのですが、なぜそんなことできるのですかと質問したところ、「私は何もできない。そのそばにそれをできる人がいるんだ」とおっしゃっていました。その方は、「私は人や場所をコーディネートするだけだ」とおっしゃっていました。やはり、そういうコーディネートする役割の人がいることが大事なのかなと思います。子供を例にとっても、うまく遊べる子と遊べない子がいて、すぐにみんなと打ち解けられる子もいれば、じっとうずくまっている子もいます。これは大人でも同じかなと感じておまして、すでにできあがって、楽しく活動しているグループに対して、入っていくのは難しいのかなと思います。そういうときに入っていくやすい環境を作ることができたらなと思います。皆さんもおっしゃっていますが、それをするために、次世代のつながりがあれば持続発展的になっていくのかなと思います。祭りと一緒に子供が主役でありながら、高齢者をはじめ大人が裏で支えていくという形がいいのではないかなと思います。

委員 私が宝塚へ研修に行かせて頂いた際、学校が地域の方に働きかけて、学校のトイレ掃除や家庭科の時間にミシンの授業をしてもらう等の活動をされているのを見ました。このミシンを教えることができる方の募集については多くの募集があったそうです。この学校、地域、家庭とある中で、誰かがこういう風に働きかけていけば、つながることができるのではないかと思います。

議長 ありがとうございます。

本日は、ご意見をお伺いする十分なお時間がとれませんので、後日、書面でこの「意見確認書」を、事務局へご提出いただきたいと思いますと考えております。6月1日までにご提出をお願いいたします。メールを使用される方へは、この様式をお送りさせていただきますので、メールで事務局へ返信をお願いいたします。メール以外の方は、ファックスで返信いただきたくお願いいたします。

それでは、本日のご意見と『意見確認書』を元に、今後、諮問案を整理していきたいと思います。

他に、ご意見がないようでしたら、本日の議事は終了させていただきます。
それでは、これもちまして社会教育委員会議を終了させていただきます。

以 上